

土の中の生き物さがし

個人出展

東京学芸大学附属世田谷中学校 河野 晃

●どんな観察なの？

生き物にはさまざまな種類があります。公園などに出かけ、探してみましょ。このブースでは、その中でも土の中の生き物に注目し、観察を行います。

●観察のしかたとコツ

土の中から見つけた4つの生き物、どんな基準で分けられるでしょうか？



図① ミミズ



図② アリ



図③ クモ



図④ ダンゴムシ

体の大きさや柔らかさ、動き方、人にとって役に立つ・立たないなど、様々な分け方があるでしょう。自分が好きか嫌いか、という分け方もありますね。

科学的に生物を分類するには、体の構造に注目します。中でも大切なのは足の数です。写真の生き物は、図①足のない仲間、図②昆虫の仲間、図③クモ・ダニの仲間、図④足の多い仲間を選びました。さらに詳しく分けるには、体にある節の有無や体の形、色などを使って仲間分けしていきます。このように、まずは自分の手や目、頭を使って意識して“観る”経験を大切にしていましょ。なお現在は、生物の遺伝子を使って分類していくことが中心となってきています。

●気をつけよう

手に触れたものをむやみに口に入れないようにしましょう。土や生物などにさわった後は、必ず手を洗いましょ。

●もっとくわしく知るために

- ・青木淳一著：「だれでもできるやさしい土壌動物のしらべかた」合同出版（2005）
- ・杉山恵一、他著：「自然観察の基礎知識」信山社サイテック（2001）
- ・日本自然保護協会編・監修：「野外における危険な生物」平凡社

自然科学を学ぶには、観る力が大切です。情報や目新しい物に目がいきがちな現在、生の体験や物事をじっくり観る機会が不足しがちです。身近な公園でも、じっくり観れば子どもにとって新しい発見がたくさんあります。こうした“足もと”を見る経験をしっかり積んでこそ、新しい発見が生まれてくることでしょう。